

特集

抗がん剤治療による脱毛抑制に効果 頭皮冷却装置を導入しました!



外科・乳腺外科部長 長尾 知哉



乳がんの治療は手術、薬物治療、放射線治療を組み合わせることで最大の効果をもたらします。特に薬物療法の進歩はめざましく、術前化学療法を行うことで乳房温存療法が可能となり、術後補助療法による転移再発の抑制は生存率の向上をもたらしました。転移再発された患者さんにもそれぞれのがんに合わせた薬剤を使用することで、身体に負担が少なく進行を遅らせることが可能となりました。



薬物療法に用いる薬剤はホルモン剤、抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬とさまざまです。その中でも抗がん剤は現在でも大きな役割を占めています。しかし、治療に伴う副作用として脱毛が大きな悩みの種でした。実際、抗がん剤治療のお話をするとき、まず患者さんからたずねられるのは、「髪、抜けますか?」です。ドラマや映画でよくある洗面台で髪を梳かす際にバツサリと抜ける、あのシーンです。

毛を作るもととなる毛母細胞は抗がん剤の影響を受けやすく、血中の抗がん剤成分にさらされることで毛根がダメージを受け脱毛を来すと考えられています。頭皮を冷却することで血管を収縮させ、毛根がさらされる抗がん剤を減らすことで脱毛を抑制することは以前より知られており、欧米では頭皮冷却装置が用いられていました。

今回、日本でもPAXMAN(パックスマン)頭皮冷却装置が医療機器として承認されました。当院では8月より導入し、抗がん剤治療を受けられる患者さんに利用いただけるようになりました。ちなみにメーカーの話では、北海道では2施設目、札幌では初の導入となります。



PAXMAN
カタログより



効果には個人差がありますが、日本における臨床試験でも脱毛の抑制や治療終了後の早期再発毛が示されました。乳がんのみならず、他の固形がん(胃、大腸など)の化学療法にも適応があります。保険診療ではないので実費が必要となります。詳細は外来担当医にお問い合わせください。



筆者も
体験しました!